

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立博物館協議会		
事務局 (担当課)		博物館 電話042-750-8030		
開催日時		令和4年7月14日(木) 午前10時00分～正午		
開催場所		相模原市立博物館 地階 大会議室		
出席者	委員	9人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	5人(博物館長、外4人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 あいさつ  2 議 題 (1) 相模原市立博物館活動評価書について (2) 令和3年度博物館事業報告 (3) 令和4年度博物館事業計画について (4) その他		

## 議 事 の 要 旨

### 1 あいさつ

佐々木館長よりあいさつを行った。

### 2 議 題

#### (1) 相模原市立博物館活動評価書について

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う博物館の対応と経過について、配布資料に基づき事務局より説明を行った。

(篠田委員) 今まで3年で評価していたが、今後は委員の任期2年と評価期間が合うということは進めやすく良い。

(岩野委員) 年報の中の報告としてはわかるが、課題にはこう取り組んでいるというような年報にしてもらえるよう検討してもらいたい。

また、委員から出ている課題について、問題点や課題をどこまで今後掘り下げていけるのか、現在どこまで対応してやっているのか、ということがわかる形になるとさらに進めやすいと思う。

(大貫委員) 評価項目の3番「市民との協働による博物館活動の展開」について、市民研究室の利用がどのくらい進んでいるのか、あるいは収蔵庫等の資料を市民の要望によってどのくらい実際市民に活用してもらっているのかというようなことを評価に入れた方がいいのではないか。

(事務局) この項目について、従来では市民学芸員の活動による学習資料展等の展示や、博物館の専門的な業務である資料の「収集・保存」「調査・研究」「展示・教育普及」の3つの柱があるが、そのすべてに市民が何らかの形でかかわっている。そういった姿を評価してもらっているが、大貫委員からあった、市民研究室の利用や収蔵資料の活用というところは、視点としては抜け落ちていたため、参考にさせもらい、評価を進めていきたい。

#### (2) 令和3年度博物館事業報告について

事務局から、令和3年度の博物館事業について、配布資料に基づき説明を行った。

(岩野委員) コロナをきっかけに動画配信が盛んになっているが、今後も広がっていく方向だと思う。博物館として対面も大事だが、動画配信での情報公開、活用をしていってもらいたい。

(事務局) ネットで楽しむ博物館については今後も継続していく予定である。なるべく労力のかからない方法で効果の高い方法など、いろいろな形を模索しながら実現可能な方向で動画配信などを活用していこうと思う。

(篠田委員) 動画配信について、今の小学生はタブレット、中学生もパソコンが授業でも取り入れられているため、博物館に来ることができなくても、教室で教材として使えるようになるとよい。また、ポスターにQRコードがあれば、子どもたちが休み時間に見ることができる。

(藤田委員) 子どもたちは一人1台タブレットを持つようになり日常的に学習の一環として使うことが増えてきているため、検索できるといいと思う。また、博物館のホームページについて、トップページがもう少し魅力的になっていると子どもたちが食いつくかなと思う。

(中里委員) 昨年、プラネタリウム特別上映の「ノーマン・ザ・スノーマン」を拝見したところ、非常にクオリティが高く素晴らしい映像だったが、残念なことに、上映期間が非常に短かった。とても素晴らしい作品だったので、こういった作品があれば「あそこに行けばすごい作品が見られる」などの評判が立つのではないかな。

(事務局) 今後、関連番組の上映などを予定しているため、ぜひまたご覧いただきたい。また、PRについても積極的に行っていきたい。

(岩野委員) 上映期間の短い作品もあるので、見たくても見ることができなかった方への便宜、配慮として夏休みなどに組み入れられるといい。

(山本委員) YouTubeの視聴回数が少ない。加えて、動画のタイトルが堅苦しい感じがあるため、工夫したほうがいい。例えば「星空情報」などはタイトルかサムネイルを興味をひきやすくすると、より多くの方に見てもらえるのではないかな。また、カイコの話やホテル観察会などで小学校などで出張授業を行っているので、その動画をYouTubeにアップしたら、小学生は復習ができ、大人も懐かしんで見ることで再生回数が多くなると思う。

(事務局) 学芸員はデジタルネイティブの人たちがどのように受け取るか、どういったものにキャッチーな感覚で引き付けられるのか、頭ではわかっているけど実行できない。動画配信媒体に慣れていないので、タイトルのつけ方など、今後の参考にさせてもらいたい。YouTubeはさらに視聴回数が獲得できる可能性も十分に秘めているはずだが、現状に満足しているところもある。

(岩野委員) YouTubeのようなものは若い人の感覚はとても大事だと思っていて、動画の作成に若い人たちの意見を取り入れる仕組みづくりを考えるべきである。

(事務局) 博物館のYouTubeは「限定公開」という形になっており、博物館のホームページからではないと視聴することができない。博物館のホームページも見てもらいたいという思いと、普通に公開するとコマーシ

ャルが入ってしまう、というところから「限定公開」にしている。キーワード検索やサムネイルが皆さんの目に入るようにということを考えると限定にしないという選択肢もあると思う。

授業でも活用できるようにという意見については、動画もあるが「貸出キット」という土器や石器などをセットにして貸し出すという事業も行なっており、博物館としては実物に触れる機会の提供をしたい。

(山本委員) YouTube を全体公開にすることでホームページのリンクのアクセスも増えると思う。コマーシャルを減らす方法もある。

(岩野委員) コロナ禍にもかかわらず様々な企画展等を開催し、たくさんの人に来てもらっている、また動画配信をすることでそ野が広がっている。実際の入館者数も8万4千人もの人に来館してもらっていることは評価に値すると思う。

(五十里委員) 当校の生徒は、博物館学芸員の指導や協力により、岩石・鉱物を使用した岩絵の具の製作をしているが、今年度全国大会に出場することになった。

(吉川委員) 博物館に来館するたびにエントランスのミニ展示が目新しく、効果的であると思う。

### (3) 令和4年度博物館事業計画について

事務局から、令和4年度の博物館事業計画について、配布資料に基づき説明を行った。

(岩野委員) 計画案の中で、4月から7月までの事業で中止になったものはないのか。

(事務局) 現在までのところ中止になった事業はない。

(事務局) 今年度の新しい事業「ナイトプラネタリウム&観望」という事業は、これまでは「星空観望会」という名称で行っていたが、コロナの影響で2年間開催できなかったものを内容を変更し、再開したものである。特徴としては、星空観察がメインだと、天候に左右されるが、通常が一番組分のプラネタリウム番組を観覧してもらうことで、天候が悪いときも事業を楽しむことができるため、プラネタリウム料金として有料としたもの。無料だった事業を有料化したのが、大変好評を得ており、8月開催分から先着順だったものを抽選制にした。

(大貫委員) 社会教育施設なので、「誰でも、いつでも」というのが大原則。経済弱者などが参加できないのはどうなのか。これまでのやり方でもよかった。博物館法23条にあるとおり、博物館は無料が原則である。

(吉川委員) 社会教育施設の中で事業が有料というのは、公民館事業でも子どもが関わる事業の時には話が出る。親の経済状況によって子どもに経験

を与えられないことがある中で、どう事業をやっていくかというのが社会教育が始まってからの課題であり、大貫委員からの話を聞いて、社会教育施設としてこれでいいのかという根源的な感想を持った。

(事務局) 7月23日に開催予定の「昼間の月を見よう」は無料で開催する。

また、ナイトプラネタリウムについては、1日の投影の5回目という位置づけであり、昼間観覧できない人に夜間に来館してもらうという意味合いもある。昼間の投影と同じ40分の番組を観ることから、有料であることは受益者負担の考え方からも妥当と考える。また、プラネタリウム料金については、ひとり親家庭や障害者、高齢者に対する減免制度も設けているため、制度のPRもしていきたい。

(中里委員) 令和4年調査研究計画にあるお茶の水女子大学からの寄贈標本について、どのような標本なのか知りたい。

(事務局) 校舎の建て替えに伴い不要になった標本を寄贈された。標本は大正から昭和初期にかけて購入、収集された岩石の標本で、貴重なもののため、受けることにした。膨大な量があるため、数年かけて整理をし、整理後は展示も行う予定。

(藤本委員) 事業計画が定番化している。事業の立案に際し、テーマをどのように選んでいるのか。JAXAの交流棟でも定番化しないようにしているが、計画を見ると新しいものが入れていないようだが、どう考えるか。

(事務局) 好評なため再度行う事業もあれば、コロナ禍で事業が行えなかった期間に見直しができた事業もある。ニーズに合わせた事業を効果的に行い、マンネリ化しないようにしていきたい。

(藤本委員) 市民とのコラボレーションや、一定のレベル以上で関わっている方たちと連携して事業を進められれば良いのではないか。

(大貫委員) いつ来ても常設展示が変わっていない。「市民とつくる博物館」というコンセプトでこの博物館をつくってきた。常設展示の展示替えも市民と一緒に行ってほしい。また、企画展やミニ展示の成果が常設展示に反映されるようにしてほしい。

(事務局) 常設展示が変わらないのは課題の一つである。ミニ展示をパッケージ化して外部に貸し出しを行うことも検討している。これらの成果の積み上げで展示替えができればと考えている。

(岩野委員) 常設展のリニューアルは大変だと思う。将来的にリニューアルの機会があったときには、市民目線のアイデアが入るよう検討してもらいたい。

(4) その他

(岩野委員) 常設展示室内に休憩するベンチ等の設置を検討してほしい。また、SDGsについて、博物館活動とSDGsはリンクしていると思うので、意識的に取り上げてもらいたい。

(事務局) 常設展示室内の休憩コーナーはコロナ禍で使用をやめている。プラネタリウム前のベンチは固定されており、移動ができない。自動販売機前のソファも撤去している状態ではあるが、常設展示室の一方通行を廃止したため、レイアウト変更を考えている。常設展示室内も含めて休憩できるスペースについて検討していきたい。

SDGsについては、チラシ等の作成時にSDGsのゴールを入れ、どのゴールになるか意識していることをアピールしている。また、担当課に働きかけをし、8月にSDGsスタンプラリーの開催が決定している。市内の施設にあるスタンプを集め、博物館もしくは担当課で記念品を渡すというもの。博物館としても意識して事業等を行ってきたい。

ア 次回の開催について

10月から11月にかけて開催を予定。後日日程を調整する。

イ JAXA連携企画展「相模原と月 vol. 2～太陽系惑星の月たち～」の展示解説

事務局の案内により、希望者のみJAXA連携企画展の観覧及び担当学芸員による展示解説を行った。

以 上

## 相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	藤田 博己	市立大野台小学校校長		出席
2	五十里 雅子	県立相模原弥栄高等学校校長		出席
3	大貫 英明	市文化財研究協議会副会長		出席
4	篠田 春美	市P T A連絡協議会副会長		出席
5	吉川 恵美	市女性学習グループ連絡協議会代表	副会長	出席
6	岩野 秀俊	前日本大学生物資源科学部特任教授	会 長	出席
7	浜田 弘明	桜美林大学人文学系長・教授		欠席
8	藤本 正樹	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所副所長		出席
9	山本 幸奈	公募委員		出席
10	中里 真紀子	公募委員		出席